

ウチナータイム!



No.23
2月
2018



仲宗根 創 なかそね はじめ

1988年、那覇市生まれ。
民謡好きの祖父の影響を受け、3才より民謡を歌い始める。
金城秀之氏・松田弘一氏・登川誠仁氏に師事。

2000年 照屋林賢氏プロデュースの民謡歌手オーディションにてグランプリを受賞し、弱冠13歳でCDデビュー。

「沖縄全島ナークニー大会2007」「琉球民謡協会 平成25年度民謡大賞」「第6回とうばら一糸満大会」、各大会にてグランプリ受賞。

「アッチャメー小」(2000年)・「歌ぬ糸」(2013年)「辿ーTenー」(2016年)と、これまで3枚のCDアルバムを発表。

現在は、県内外、海外と様々な舞台やライブ、テレビ・ラジオ等に出演する傍ら、民謡研究所を開き後進育成にも取り組んでいる。

最近では、三線とウクレレが融合した新楽器「サンレレ」奏者としても活動中。
琉球民謡協会教師。

【第301回】インタビュー
2月7日(水) 再放送10日(土)

琉球民謡唄者

仲宗根 創

ライブ・イベント情報

■『U18 島唄者コンテスト』
チャンプ流う芸能団 ゲスト出演
日時：2月10日(土) 15時開演
場所：読谷村文化センター鳳ホール
お問い合わせ：098-867-4746
(沖縄県文化協会)

■『仲宗根 創 北海道ライブ』
日時：2018年2月21日(水)
19:30 スタート
場所：りっかりっか
(札幌市中央区南3条西3丁目
サンスリービル2階)
料金：2500円(飲食代別)
予約・お問い合わせ：011-596-7192
(※事前予約制 30名定員)

■『第20回北海道泡盛のタベ』
日時：2018年2月22日(木)
18時30分～
場所：ホテル札幌ガーデンパレス
会費：5,000円(税込)
お問い合わせ：011-661-5555

■「新華—SHINKA— 若手唄者による
島唄の響きと創作舞踊の新たな挑戦」
出演&構成担当
日時：2月24日(土) 18時予定～
場所：金武町立中央公民館
入場無料

■「ゆかる日まさる日さしんの日」出演
日時：3月4日(日)
詳細未決定

■「チャンプ流う芸能団公演～二之巻～」
日時：3月9日(金)
18時30分開場／19時開演
場所：うるま市民芸術劇場(燈ホール)
料金：前売り2500円(当日3000円)
お問い合わせ：080-9141-5014
(チャンプ流う芸能団)

ラジオの聞き方

スマートフォンで聴く場合、アプリは不要!!
パソコンと同じURLをスマホからアクセスするだけで聴けます。

<https://fm-odawara.com>

毎週水曜 19:00～20:00 再放送 毎週土曜 18:00～19:00



ハイサイ!
ウチナータイム!

FM おだわら

で検索!

FM 78.7MHz
おだわら
<http://fm-odawara.com/>



琉球パフォーマンスコネクション

するといった番組で、生放送中にパフォーマンスタイムもあるという斬新な番組なんです。もちろん、動画配信も行っていますのでパフォーマンスも見れて、その人がどんな考えを持っているのかが分かるという番組なんです。そしてゲストで出たパフォーマンスは次回からはMCで参加するという流れ。笑。

この番組を始めたのは、やっぱり沖縄のパフォーマーやクリエイターをもっといろいろな人知ってほしい、紹介したいという気持ちから。そして、僕が考える「理想」を叶えることに繋がればいいという思いからなんです！

その理想とは、、

今回は僕が沖縄で行っている活動の1つ、ラジオ番組について紹介したいと思います！

実はわたくし、FM那覇で番組をやっています。その番組の名前が「超人！変人？RPC！」という何ともふざけたネーミング。笑

この番組は沖縄のパフォーマーがMCとなり、毎回様々な表現者をゲストに招き、トークで根掘り葉掘り紹介

パフォーマーが常にテレビに出れるような世界を沖縄で作る。単発ではなくレギュラーで。

通常、番組にはタレント、モデル、芸人などがそれぞれのコーナーなどのMCを務めています。そこに「パフォーマー」という枠を作りたい。単発で取り上げられるのではなく、パフォーマーが当タリ前にテレビに出て自分のコーナーを持ち、いわゆる「芸能人」として扱ってもらえ

るような世界を僕は沖縄で作りたい。メディアに定期的に出ることによって名前を覚えてもらえる機会が増え、人気が出たらパフォーマンスの仕事も増える。いい好循環を生むことが出来て沖縄でもプロで食べていける道筋ができると考えています。

そのために、まずは僕らが喋れて、絵にもなることを勉強しながら証明することが大切だと思い、コミュニケーションではありますが番組を持つことにしました。映像もアークイブで見れるようになっていきますので、このラジオからテレビでも活躍できるような道筋が出来たらいいな！と考えています。そのためにも、もっとこのラジオを利用してもっと喋りも上手くなければ・・・と実感しています。笑

ネットから動画も見れるのは是非、コメントとかも貰えると嬉しいですよ！チェックよろしくお願いします☆

FM那覇「超人！変人？RPC！」
毎週金曜日 19時〜19時55分

FM那覇ホームページ、琉球パフォーマンスコネクションFBページから生配信！

たるーの島唄コラム 第十一回 シマウタとウチナーグチ

「沖縄のウタが好きだ。でも歌詞の意味がさっぱりわからないんだよ。こんな声をよく耳にするし、確かに難しい。よく知られた「涙そうそう」といえば意味はなんとなくわかりそう。でもこの「なだ」とか「そうそう」ってなんだろう。

沖縄では涙（なみだ）を「なだ」と言う。「そうそう」は「雨がザーザー降る」と言う場合の「ザーザー」に当たる。だから「なだそうそう」とは涙が雨のように流れている「様子」ということになる。

このような沖縄の言葉を「ウチナーグチ」と呼ぶ。主に沖縄の本島の言葉。名前にも「ウチナー」が使われている。

何故「沖縄」(おきなわ)を「ウチナー」と言うのだろう。ちよつとややこしくなるけれど、覚えておくくと便利で大切な法則がそこにある。沖縄の言葉と本土の言葉は「兄弟」のように同じ根源をもちながら別々の発展をしてきた言語だといわれている。だから、その変

化の特徴を知っておくとウチナーグチを理解しやすくなる。

まずは「おきなわ」をアルファベツトに直してみよう。そう、okinawaだ。

さて沖縄語と標準語との違いは母音の数だ。標準語は五母音で「あ、い、う、え、お」だが、ウチナーグチは三母音「あ、い、う」の三つしかない。「え」と「お」はどこに行っただかといえ、それぞれ「い」と「う」に長い時間をかけて変化していったと言われている。でも「え」とか「お」など伸ばす音はある。

だから「おきなわ」の「お、」を「う、」に変えてみよう。「うきなわ」(ukinawa)となる。

そしてウチナーグチには「き」を「ち」と発音することが多い。例えば「黄色」は「ちーる」、「聞く」は「ちちゅん」。「菊」は「ちく」となる。

これを当てはめてみると「うきなわ」は「うちなわ uchinawa」になる。

そして、最後の決め手は、沖縄語では「わ」の「w」が抜けることがある。「川」のことを沖縄では「カーラ」という。「河原」から来ているのだが「かわら kawayara」の「w」を抜くと「ka ara」つまり「カーら」になる。

というわけで、「うちなわ uchinawa」の「w」を抜くと「uchina」つまり「うちな」となるって訳だ。

もちろん法則は沢山あり実際はもっと複雑だ。でも結構役に立つ。こんな知識を持つただけでも沖縄のウタが身近になるはず。

沖縄のウタの意味を知りたい方は「たるーの島唄まじめな研究」で検索してみてもいい。何かヒントになれば嬉しい。

たるー(関洋)
宮崎県生まれ。広島在住。琉球民謡協会教師。
タートでおなじみの「たるーの島唄まじめな研究」の著者。
島唄の訳と解説をして10年。
広島で三福教室やTCO集舞バンドを主宰。



おおしろひそか 那覇市出身、東京都在住。
「スマホ小説大賞 2014」にて『私アブリ』が角川ホラー文庫賞を受賞。「第2回ノベルスタ大賞」にて『EGGMAN』が準大賞を受賞。2017年『下町アパートのふしぎ管理人』シリーズが角川文庫より刊行されている。

またこのときが来た。

私が去年惜敗した「カーサームーチーの戦い」の季節だ。カーサームーチーとは旧暦の十二月八日、新暦の一月の下旬から二月上旬に長寿祈願の縁起物として食べるものだ。この前担任の古堅先生から教わった。昔話では鬼退治に使われたということで、漢字では「鬼餅」と書かれるという。つまり餅だ。特徴的なのは月桃の葉で全体が包まれていること。

だが、私にはそんな知識はどうでもよかった。私の家では母とその妹の叔母さんとお婆ちゃんで近隣の親戚中のムーチーをまとめて作り、それを各家庭に配る。

ムーチーには白砂糖で味付けしたシンプルな白ムーチーと、黒糖の入った赤ムーチーがある。月桃の葉で包まれたムーチーは、大体の場合、白は白いビニールで赤は赤いビニール紐で月桃の葉が開かないように結ばれている。

私には兄が二人いるが兄たちと私、三人とも黒糖入りの「赤ムーチー」が好きなのだ。それはもう圧倒的に。白ムーチーなんてなくてもいいほどに。

この前学校のクラスメイトに簡単なアンケートを取ったが、クラスの三十人中、白が好きと言ったのたのたの二人、三人がどちらも好き。残りは全て「やっぱり黒糖入りの赤ムーチーだよな」という結果になった。(その他に紅芋入りという意見があったが、私の家ではそれは出ないの

で無効票にしておいた) 以上のことから白ムーチーはなくてもいいのだ。少なくとも私たち小学生の中では。――そしてこの日が来た。母がお婆ちゃんの家で作ったムーチーを袋一杯に持って来た。兄たちより授業が終わるのが早い私は、一足先に月桃の葉の中に隠れたムーチーの誘うような香りを楽しむ。それだけでも幸せな気分になった。

袋の中を覗くと、二十個ほど入っていた。両親を入れて家族五人で分けることを考えると、一人四から五個といったところだろうか。白と赤、同じ数だけ持つてきてくればいいのに、去年と同じように今年も数は均等ではない。それだけで余計な争いを生むことを母は分かっているのだ。なぜそうなるのかと去年母に聞いたら、「なんで、三人で作ったからさ」と言われた。つまり材料は均等でも、作り手によって誤差がでるということだろう。

「あんだ、まだ食べんでよ。喧嘩にならんように、にーにーたちとちゃんと分けるんだから。数も数えてあるから食べたらバレルよ」

「うん、分かっている。食べたらないよ」

私が部屋で宿題をしていると、ドアが開く音と共に騒がしい兄たちが帰ってきた。二人は楽しみにしていたムーチーのために競い合って帰ってきたらしく、いつも増して乱雑な音がドアの向こうから響いている。

毎月 沖縄をテーマとした3分で読める読み切り超短編小説シリーズを掲載！
今回は『グルクン』。お楽しみに！

